

景気動向指数 DI から CI へ：論点整理

東京大学・福田慎一

1. なぜ CI なのか？

a. 景気の量感。

DI は景気の広がりや転換点の検出には優れているが、量感はとらえにくい。

b. 世界的には CI が中心。

ただし、DI と併用のケースが多い。

Conference Board:

Diffusion indexes provide another source of useful, but often neglected, information about the business cycle. They tell us how widespread a particular business cycle movement (expansion or contraction) has become, and measure the breadth of that movement.

2. GDP との違い

a. GDP

一国の生産活動を表す。

ただし、生産活動に占める第3次産業（特に、サービス業）の比率が高い。

製造業の比率は3割以下。

月次GDPは短期的なボラティリティーが高い。

b. 景気の考え方

Conference Board:

Business cycle indicators have proven to be useful tools for analyzing alternating sequences of economic expansions and contractions known as business cycles.

c. 速報性、改訂なし

3. CI の計算方法

a. 推計方法

ストック=ワトソン法などが理論的には望ましい。

ただし、計算コストは大。

また、トレンド部分を除くと、同じ個別系列を用いる限り、結果は大差ない。

b. 個別系列の選択

どの個別系列を用いるかは結果を大きく左右。

現行の個別系列は、DI を念頭においたものであり、長期的には見直しが必要。

とくに、現在 11 系列ある一致指数の個別系列は、必ずしも望ましいとはいえない。

Conference Board:

先行指数 10 系列、一致指数 4 系列（雇用、所得、生産、売上）、遅行指数 7 系列。

先行指数は比較的日本と類似。一致と遅行は大きく異なる。

4. 現行の CI について

a. 景気の量感

長期時系列を使った量感の比較はできない。←トレンドの問題

ただし、バブル期と 90 年代の山の高さは明らかに異なる。⇒ CI のメリット

最近の一致 CI の上昇は、実感とずれ。←大企業・製造業に偏った個別系列の問題

b. 景気日付との整合性

現行の CI は比較的整合的 ←DI と同じ個別系列を用いることのメリット

c. 一致指数以外の CI

アメリカでは、一致 CI よりも先行 CI の方が注目されている。

日本の先行 CI : タイミングは一致 CI によく先行している。

しかし、量感では、一致 CI の先行指標となっていない。

最近の先行 CI は、危険信号を示す。

5. CI の改良

中長期的には採用個別系列の見直しを中心に大胆な変更が必要。

ただし、特に一致 CI の個別系列を変更した場合、景気日付との整合性が保たれなくなる心配がある。

また、変更の際には説明責任も必要。